



HOPPY team TSUCHIYA  
レース結果報告書  
2024SUPER GT Rd.5 SUZUKA

■日時	2024年12月7-8日	■車両名	HOPPY Schatz GR Supra GT
■場所	鈴鹿サーキット	■ゼッケン	25
■監督	土屋 武士	■ドライバー	菅波冬悟／松井孝允／佐藤公哉
■チーム	HOPPY team TSUCHIYA	■リザルト	予選 20位／決勝 15位

## 集大成の戦いを目指すも 入賞を果たせず悔しい結果に

12月7-8日、三重・鈴鹿サーキットにおいてSUPER GT 第5戦「SUZUKA GT 300km RACE GRAND FINAL」が行なわれた。No.25 HOPPY Schatz GR Supra GTは、予選20番手からシーズンラストレースに臨むと、菅波冬悟、松井孝允両選手が奮闘して着実にポジションアップ。しかしながら、“あと一步”及ばず15位で戦いを終えることになった。

こんにちは、ホピ子です。今年は厳しい夏が長く、駆け足で秋が過ぎ去ったと思ったらあっという間に冬を迎えました。富士山の初冠雪は例年よりもかなり遅かったというのに、すぐに寒くなったと思いませんか？ホピ子にとっては12月のレースなんでもちろん初めてのことに、いったいどうなるのやらまったく想像が付きませんでした。前回のもてぎでは、予選からのいい流れをキープして是が非でも入賞を！と張り切っていたのに、まさかのタイヤ脱落……。ホピ子をブラッシュアップするなかで発生したトラブルだったけど、これもまた今後に向けての貴重なデータになったはず。

さて、今回の鈴鹿はシリーズ最終戦に位置づけられているけど、レース名称としては“第5戦”。どうしてって？ホピ子を応援してくださっている皆さんならご存知でしょうが、もともと8月31日-9月1日で開催予定だった鈴鹿戦が台風10号接近の影響を受けて開催延期となったんです。なので、最終戦ながら“第5戦”での開催となったんですよ。

鈴鹿でのレースはシーズン2回目。前回は6月上旬ながらもうすでに暑さが先行するなかでの戦いだったので、今回はまったく異なるコンディションでレースに臨まなきゃいけません。気温・路面温度ともに低温のなか、タイヤやクルマをどんな形で準備してくのか……。事前にしっかりと方向づけて鈴鹿に向かった次第です。

搬入日の金曜日はまだ日差しもたくさん出ていて寒さはさほど感じなかったのに、朝晩の寒さは冬到来そのもの。予選日の朝もピンとした空気が張り詰めてましたよ。午前9時15分から始まった公式練習では、気温11度でしたが路面温度はなんと12度！12月開催が決まったとき、チーム関係者からはタイヤウォーマーの使用！という声も上がったそう。でも、チームによってそれぞれ状況が異なるため、実現しなかったと聞きました。

公式練習では、まず冬悟くんがコースインし、周回を重ねました。まずは“タイヤを温めること”を一番に、その後は持ち込みセットのフィーリングを確認。序盤にこのセッションでのチームベストタイムとなる1分58秒650をマークし、その後はピットインを繰り返しつつセットアップを続けました。孝允くんに交代したのは午前10時前。同じように持ち込みセットを確認しつつ、タイヤのフィーリングをつかむように周回しました。セッション中は、途中でFCY（フルコースイエロー）導入の練習も行ない、その後のGT300クラス専有走行でアタックシミュレーションもしたかったのですが、チェッカー3分前にシケインでスピンし停止したクルマがいたため赤旗中断となり、残念ながらこのまま走行も終了に。結果、ホピ子は冬悟くんがマークしたタイムで20番手で公式練習を終えることとなりました。

午後に入ると、次第に温かな日差しに恵まれた鈴鹿。公式予選の直前、気温は14度、そして路面温度は24度まで上がりました。ただ、数字とは裏腹に冷たい風が吹き続けていたこともあり、体感的には正直寒かったかな。そうそう、時期的にタイヤの温まりが難しく、時間も要することを踏まえ、今回はGT500クラスから予選を行なうことになったんです。GT300クラスのQ1は午後2時13分から始まりました。時間も5分追加の25分間。時間が長くなったからといって、ずーっとコースを周回してタイヤを温めるっていうわけじゃないけれど、最適なタイミングを見計らってアタックすることもまた難しく……。なにしろ、GT300クラスのQ1は全車コースインしてのアタックですからね。実際、担当した冬悟くんも、セッション開始から10分以上ピットで待機していました。スタート直後からコースインし、早い段階でアタックを済ませてピットに戻ったクルマもいたけれど、ホピ子はセッション中盤のタイミングでコースインし、アタック開始。計測4周目で1分57秒217をマーク。鈴鹿戦を迎える前から、みんな“コースレコード更新”を話題にしていたけど、やっぱり冬はタイムが伸びました！冷たい空気によってエンジンパワーもアップするんだそうで、ホピ子も第3戦の鈴鹿より3秒ほど速いタイムで走れました。このまま、Q2でのU14グループに入れるかあ、と思ったんだけど、惜しくも“3つ”足らなくて。17番手でアタックを終えることに。一方、孝允くんが出走したL15グループのQ2が始まる頃には、すでに気温は19度まで降下。ホピ子にとっては難しい状況になりました。結果、孝允くんのベストタイムは1分57秒805。Q1とQ2の合算タイムによって、ホピ子は総合20位に。なんとしても、レースでは入賞目指してがんばらないと！と思ったホピ子でした。

決勝日はさらに冷たい風が吹いた鈴鹿。これが“鈴鹿おろし”なんだなあ。これ、鈴鹿山脈から伊勢湾へ向けて吹く冷たく強い北風のことですが、間違いなくその風が吹き付けていたと思います。現場観戦の皆さん、大丈夫でしたか？体調崩さなかったですか？ほんと、寒いなかのご来場、ありがとうございました。

さあ、泣いても笑っても今シーズンのラストレースの幕が上がります。ホピ子にとって、シーズン全8戦のスターティンググリッドからスタートを切れたことをまず感謝したいです。もちろん、もっといい予選順位からスタートして、もっといろんなライバルとバトルをして、さらには表彰台争いも……。そういう思いもありましたよ。でも、前年のことを考えたら、まずは1戦1戦、皆さんに戦う姿を見せることが先決かな、とも思ったのです。確かに“競争”という舞台なので、ただ出走しているだけでは“お話し”にならないし、甘い世界でもないですよ。とはいえ、多くの人たちに支えられ、チームのみんなが一生懸命いろいろ創意工夫して取り組んでいるのを誰よりも知っている武士監督の思いが痛いほどわかるから……。これまでのレース参戦のなかでも、もっともスローペースで歩みを進めたシーズンだったから、冬悟くんや孝允くん、第3ドライバーながら毎戦チームに帯同してくれた佐藤公哉くんにとっては、相当ストレスも溜まっただろうなって思います。そのなかで、つねにベストを尽くそうと腕を振るってくれたことにも感謝しています。

おっと、レースを前に、話が逸れちゃいましたね。決勝レースは午後 12 時 50 分に幕が上がりました。三重県警の白バイ、パトカーによるパレードラップを経てフォーメーションラップに入りました。予定からさらに 1 周追加となったため、レースラップは 51 周に。気温 13 度、路面温度 17 度と予選日よりかなり寒さが身にしみるなかでの戦いが始まりました。

スタートを担当したのは冬悟くん。20 位からのスタートでしたが、タイヤのウォームアップとの兼ね合いでしばしポジションを上げたり下げたりが続いたけれど、早速 9 周目に FCY の導入があってリスタートしたり、落ち着かず。GT300 クラスでは、まず 15 周終わりでピットインが始まり、ホピ子はというと 16 周終わりでピットへ。孝允くんシーズンラストランを委ねました。どれだけ粘れるか、踏ん張れるか……、そんなシーズンの集大成の走りを見せるつもりでしたが、結局のところ後方からの“猛追劇”をお見せすることはなく、ミスなく周回を続けてチェッカーを受ける……、そういう戦いで幕を下ろすこととなりました。結果は 15 位。振り返ると、全戦で入賞を果たせず、ノーポイントに終わりました。

武士監督の言葉を借りると、「チーム創設以来、初めてノーポイントで終わるという非常に苦しいシーズン」になりました。“ホピ子の力、及ばず” だったのです。武士監督としても、昨年のアクシデントからのシーズン参戦を実現させるため、様々な点で制約を強いられて遺憾の思いがあったはず。守りに入ったわけじゃないけど、やっぱりどこかで見えないブレーキが働いたのかも。ホピ子もここぞというときにキチンと力を発揮できず、忸怩たる思いがありました。

来シーズンに向けて、まわりは“オフシーズン” と言うけれど、ホピ子には、そういうものは存在しません！ 来シーズンに向けてやるべきことがたあ～くさんあります。チームのみんなは、あれもやってこれもやって……、と頭のなかではスケジュールがびっしりです（笑）。一步一步の進歩はなかなか目には見えづらいけど、花が咲くときは、一気に華やかに咲かせたい！ そんな思いをもって 2025 年シーズンに向けてスタートを切りますね。来シーズンこそ、ホピ子の奮闘にご期待ください。そして、一緒に喜びましょう！

最後になりましたが、今シーズンもホピ子を応援くださりありがとうございました。来シーズンもサーキットでお会いしましょう！

## ■レースを終えて

### 【菅波 冬悟】

最終戦も沢山の応援ありがとうございました！

今大会は 12 月の極寒の中でのイレギュラーなレースとなりましたが、無事にチェッカーをうけることができました。今年一年走り切れたのも、皆様のご協力と応援があったことだと思います。

本当にありがとうございました！

レースの内容では、ただ純粹に上の順位で争える速さがありませんでした。

しかし、ホピコの秘めているパフォーマンスはもっと高いと思いますし、チームもそのパフォーマンスを引き出す努力をしています。

来年はもっと上位で争えると思います！

引き続き応援していただくと嬉しいです！

### 【松井 孝允】

最終戦は何としてでもポイントが欲しかったのですが、なかなか思うような結果が得られず悔しい内容となりました。

たくさんの方々のお陰で2024年を戦うことが出来たことを本当に嬉しく思います。

個人的にもまだまだレベルアップが必要と感じたのでしっかりとシーズンオフは鍛えなおして行きます。

応援ありがとうございました！

### 【佐藤 公哉】

シーズン最後のGTもたくさんの方の応援ありがとうございました。

ご来場いただいた皆様も寒い中ありがとうございました。

今大会、私はドライブすることはありませんでしたが、まずは大きなアクシデント無く無事にシーズン最後のチェッカーを受けることができよかったですと思います。

そして、今シーズンはリザーブドライバーとしてチームに迎え入れていただき帯同させていただきました。

チーム、そして、あたたかく迎え入れてくれたサポーターの皆様に感謝申し上げます。

また来シーズンも皆様とサーキットでお会いできるのを楽しみにしております。

ありがとうございました！

### 【土屋 武士監督】

この鈴鹿ラウンドで2024年シーズンのスーパーGTのスケジュールが終了しました。開幕前の富士合同テストに車両製作が間に合い、この鈴鹿のチェッカーまで無事に走り切れたことにまずはホッとしています。そしてこのステージに戻ってくださった多くの支援者の皆さまに深く感謝しています。

本当にありがとうございました m(\_ \_)m

今シーズンは何よりも1年を走り切ることを優先にしていたため、レースの結果は不甲斐ないものとなりました。特にドライバーたちには我慢を強いることが多く、申し訳ない気持ちでいっぱいです。最後の鈴鹿も期待した結果には届かなく、応援いただいていた皆さんへいい報告ができなかったことは非常に心苦しく、申し訳ない気持ちが一番にあります。

ただ、この経験は一つも無駄にはしていません。チーム全員が成長の糧にできた時間だったと、胸を張って言えます。この成果を来シーズンにしっかりとお見せできるように、すでにガレージでは全開で作業を進めています。もちろん簡単ではありませんが、一つ一つ丁寧に、ブレずに前を向いて突き進み、いい結果を掴み取るためにオフシーズンを精進していきます。

プライベーターが生き残るには非常に厳しい環境であるとは思いますが、たくさんの方の皆さんのサポートがある限り、歯を食いしばって頑張っていきます！

本当に今年も温かいサポートをありがとうございました！

また来シーズンも応援よろしく願いいたします！！

### 【問い合わせ先】

つちやエンジニアリング合同会社

〒252-0822 神奈川県藤沢市葛原2507

TEL : 0466-49-5010 FAX : 0466-49-5011

担当：土屋・佐々木